

同世代が語る被災体験

宮城県の石巻中・八重樫さん講演



講演した石巻中3年の八重樫さん（日田市北部中）

東日本大震災で被災した宮城県石巻市の石巻中学校3年の八重樫蓮さん（14）が日田市の北部、東部の両中学校で震災の体験を語る講演会を開いた。

八重樫さんは震災直後から被災地で支援活動が続ける日田市の市民団体「日本緊急援助隊チーム大分（梅山忠信代表）」と知り合い、今年3月、日田市で開いた防災を考えるシンポジウムにも出席した。チーム大分の活動に参加する北部中の小野博康校長が「日田市内の中学生にも同世代の生の声を聞かせたい」と、今年3月まで勤務した東部中を加えて生徒を対象に講演会を企画した。

北部中では、震災時に小学校3年だった八重樫さんが津波から避難した学校の校舎に2日間泊まったこと

援助隊活動が縁で実現



「必要だったことって寂しかったことなどを説明。震災直後に必要だったこととして「SNS（会員制交流サイト）も便利だったが、日常の近所付き合いのできる情報交換も大切だった」と話した。

河津創太北部中生徒会長（顔写真）は「日田に来てくれたことがうれしい。これからも頑張ってほしい」とエール。小野校長は「今の自分たちの生活が当たり前でなくなることがあり得ることを理解してほしい。被災した人に自然と手を差し伸べることができる人になってほしい」と話している。

（佐藤栄宏）

（2016年8月25日付朝刊日田玖珠面）

- ① 最初の□には3文字、後の□には4文字の言葉が入ります。書き入れて見出しを完成させましょう。
- ② 八重樫さんが語った、震災直後に必要だったことは何でしょう。

SNS や、日常の近所付き合いのできる情報交換

- ③ 小野校長先生が子どもたちに伝えたかったことを、まとめましょう。

今の自分たちの生活が、当たり前でなくなることがあり得ること。被災した人に自然と手を差し伸べることができる人になってほしいこと。